

## 部会長挨拶



今春より粒子流体プロセス部会長を仰せつかりました。本部会は化学工学会で最大規模の部会であり、これまで部会長を務められた先生方は、著名で経験豊富な方々ばかりでした。私のような若輩者に務まるものではないと思っておりましたが、幸い、群馬大学の野田先生のご協力がいただけることになりました。二人三脚で進めて行けることは非常に心強く、ここに記して、厚く御礼申し上げます。

本部会は「ミキシング技術分科会」、「熱物質流体工学分科会」、「流動層分科会」、「気泡・液滴・微粒子分散工学分科会」、「粉体プロセス分科会」の5つの分科会が緩く連帯する形で発展してきました。これらの分科会は、部会設置以前から「ミキシング技術」、「熱物質流体工学」、「流動層」、「気泡塔・懸濁気泡塔の装置設計」の4つの特別研究会で活発に活動してきた歴史もあり、会員の皆様が研究を進める上で、大変有益な組織となっています。そのため、これまでの緩やかな連帯は維持し、分科会同士の連携などにより、これまで以上の発展を目指すことを部会の役割として、企画・運営をしていきたいと考えております。

さて、昨年度の後半から問題となっている新型コロナウイルス感染症のため、年会が中止になるなど、学会においても大きな影響が出ております。部会の皆様におかれましても、職場等で多大なご苦労が生じているものと推察いたします。しかし、どのような状況下でも科学技術の進展を滞らせることはあってはならず、研究を停滞させるわけにはいきません。皆様と知恵を出し合い、部会や分科会での活動を活発化させたいと思います。皆様のご協力の下、ピンチをチャンスに変えて、部会をより発展できれば幸いです。

桑木 賢也（岡山理科大学）